

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 46

校名・団体名	東濃地区図画工作・美術教育研究協議会
コ ー ス	団体研究
活動・研究のテーマ	よさを引き出し、伸ばし・広げ・深める造形美術教育

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1. 第28回岐阜県図画工作・美術教育研究大会 東濃地区大会
 第49回東濃地区図工作・美術教育研究協議会 多治見大会 の実施
 平成30年11月2日 授業研究会（多治見市内5校） 全体会（パロー文化ホール）

（1）“本物”を活用する「授業デザイン」～多治見市内の活用したい施設を総動員～
 「子どもたちの心を刺激し、表現欲求を喚起する“仕掛け”を設定する」ために、どのような手法で推進したらよいか、具体的なプランを提示した。

「美術館・資料館との信頼関係を構築し、互いに汗を流す双方向の連携を実現する」これを、授業デザインのチャレンジ課題と捉えて、多治見市にある、美術館等の施設を総動員して“本物”と出会う授業を小学校3校と中学校2校で提案した。

- ①多治見市立精華小学校2年生公開授業 「元気がでる魚」【写真①】
 ・土岐川観察館と連携
- ②多治見市立北栄小学校3年生公開授業「うちゅう人の友だち」【写真②】
 ・多治見市モザイクミュージアムと連携
- ③多治見市立小泉小学校6年生公開授業「未来につながる小泉平成土器」【写真③】
 ・多治見市文化財保護センターと連携
- ④多治見市立陶都中学校1年生公開授業「未だ見ぬ自分に出会う土器」【写真④】
 ・美濃焼ミュージアムと連携
- ⑤多治見市立南ヶ丘中学校3年生公開授業「希望の塔～明日を信じる」【写真⑤】
 ・岐阜県現代陶芸美術館と連携
- ⑥東濃5市の実践交流（各公開授業会場で実施）【写真⑥】



①



②



③



④



⑤



⑥

(2) 東濃5市の実践作品展示【写真⑦】

「東濃地区図画工作・美術教育研究協議会」の教師で「実践集」を作成して、当日配布した。さらに、作品も展示し、指導した教師と参観者が子どもの作品を通して交流できるようにした。

(3) 安藤日出武氏による作陶実演【写真⑧】

岐阜県重要無形文化財保持者(黄瀬戸)安藤日出武氏が、電動ろくろを使用して、作陶の醍醐味を提示した。参加者の中から希望者を募り、その場で体験できるようにした。日出武氏による指導に会場は大いに盛り上がった。



⑦

(4) 野焼き窯再現展示

市之倉小学校で築窯・焼成した「野焼き窯」を文化ホールのロビーに再現した。窯の開発者である川合尚也氏が来場者に解説した。

また、市之倉小学校6年生が製作した野焼き作品も展示した。

(5) 40年前の実践展示(古田一夫氏の実践)

古田一夫氏が精華小学校で指導した作品数点(著書に写真が掲載)展示し、東濃地区の造形教育の歴史の一端に触れられるようにした。



⑧

(6) 記念講演会(文部科学省初等中等教育局 東良雅人 視学官)

演題「生活や社会の中の形や色、美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成」

参加者の感想からは、「東良視学官の『一番子ども達を知っている教師こそが、子ども達の創造活動をつくることのできる』という力強い講演内容に勇気づけられました。」という声が聞かれた。

【成果】

- 200人を越える参加者があり、多治見市が伝統的に大切にしてきた素材である土の魅力を再発信することができた。
- 東濃地区という土というイメージがあるが、恵那市や中津川市を中心に、地域に豊富にある木を用いた実践を発表できた。
- 地域にみえる方に学習に参加していただいたり、美術館や資料館と連携したりして、子どもに感動を味わわせる授業づくりができた。

2. 第55回 多治見市「土と版画展」平成31年2月2日(土)～4日(月) パロー文化ホール

作品展では、多治見市内の全小・中学校の児童生徒の土と版画の秀作2500点以上を紹介した。

11月2日の研究大会で授業提案した作品も展示された。会期前には、作品をもとに、図工・美術部会の研修会を行い、指導力向上の場とした。

新聞でもこの展示会が紹介され、多くの市民が作品を鑑賞した。出品された子どもの励みにもなった。



【展示の様子】



【研究会の様子】